

# 令和6年度介護福祉等に係る講習会

2024.8.30 Fri.

全国福祉高等学校長会主催「介護福祉等に係る講習会」最終日となりました。

## 【こころとからだの理解】

午前は、26日（月）に引き続き、日本福祉大学中央福祉専門学校 板部 美紀子 先生に、講義をご担当いただきました。

前半では、こころとからだのしくみについて、各器官の機能や特徴を具体的にご教示いただきました。

骨格や筋肉に関するお話では、利用者の視点だけでなく、介護者自身のボディメカニクスの活用や腰痛予防の観点からも説明していただきました。また、こころとからだのしくみの知識を生かした観察のポイントを知ること、利用者のアセスメントにも活用できることを教えていただきました。

後半では、生活支援に関連するからだのしくみについて、実際の介護場面や事例に基づき説明していただきました。

講義全般を通して、介護福祉士国家試験における出題頻度や他科目との関連性、指導時のポイントについても併せてお話していただきました。

<午前の講義の様子>



## 【求められる介護福祉士】

午後は、公益社団法人日本介護福祉士会 及川 ゆり子 会長、厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 鈴木 真智子 介護福祉専門官に、それぞれ講義を担当していただきました。

及川会長からは介護福祉士の求められる資質や能力について講義いただきました。多様化する介護ニーズにおいて介護福祉士は現場のリーダーとして中核的な役割を果たしていかなければならないことや、の、また事例を用いて利用者にとのように関わっていくかなどを考えることができました。

養成課程において、科学的介護を行うための介護過程を展開していく力を育てていく必要があることを説明いただきました。

鈴木専門官からは「介護福祉士を取り巻く状況」「介護人材における介護福祉士」「社会に求められる介護福祉士の役割、能力」について講義をいただきました。

特に山脈型キャリアモデルでは、福祉に関わるそれぞれの専門職が、専門性を高めて互いに連携していくことが大きく求められている。福祉教育の専門職として、教育する側も新しいことを学び、生徒たちに伝えていかなければないと強く実感することができました。

また、現在検討が進められている介護福祉士国家試験のパート合格についても、具体的に話を聞くことができました。

## <午後の授業の様子>



福介（ふくすけ）

30日の講義をどうにか対面で実施したいと、及川会長、鈴木専門官とも、前日入りをしようと急遽予定を調整していただきましたが、台風の影響で新幹線が止まってしまい、数時間待ったのち運休となってしまいました。残念ながらオンラインでの講義となってしまいました、大変貴重なお話を聞くことができました。

会場では、公益社団法人日本介護福祉士の公式キャラクターの「福介（ふくすけ）」が受講生を見守っておりました。

## 【閉会式】

講義終了後、閉会式が執り行われました。主催者挨拶では、全国福祉高等学校長会研修部長である静岡県立清流館高等学校 山梨 祥子 校長がご挨拶されました。続いて、来賓挨拶として文部科学省初等中等教育局教育課程調査官 辻本 智加子 様よりお言葉をいただき、10日間にわたる講習会が無事に終了しました。

104名の受講生が、それぞれの地で高等学校の福祉教育を牽引する人材として、活躍されることを期待します。



（主催者挨拶 山梨校長）



（来賓挨拶 辻本調査官）



（閉会式の様子）